

令和3年度第3学期始業式式辞（放送）

おはようございます。令和4年、明けましておめでとうございます。

穎明館生の皆さんは、冬休み、年末年始をどう過ごしましたか。「1年の計は元旦にあり」——新年を迎えてきっと決意を新たにしていることでしょう。

さて、今年の12月13日に、その年の世相を表す漢字が発表されました。その字は「金」でしたが覚えていますか。東京五輪・パラリンピックで日本人が多数の金メダルを取ったこと、メジャーリーグの大谷翔平選手が投打の二刀流で活躍し、将棋の藤井聡太竜王が最年少四冠を達成するなど、各界で金字塔が打ち立てられたこと、そしてコロナ関連の給付金が議論されたことが主な理由だそうです。ちなみに一昨年は三密の「密」、その前の年は令和の「令」でした。

報道では、漢字一字を著名人に聞いた結果も出ていました。少し紹介します。岸田文雄内閣総理大臣は、「新しい時代を拓く、新しい資本主義を切り拓いていく、開拓の『拓』を今年の漢字にしたい」と語ったそうです。また、建築家の安藤忠雄氏は、「ぶつかり迷いながら必死に生きる。そんな一人ひとりの行動が明日を照らす希望の光になる」と強調し、「光」という一字を選んでいました。海外の有識者では経営アドバイザーのラム・チャラン氏が、「厳しい状況から抜け出す未来を信じよう」と、「信」を一字として挙げました。いずれも暗い一字を挙げた人はいません。日本と世界を混乱に陥れたコロナ禍収束への願いが込められているように思います。

そこで、今日は皆さんがどのような目標で、新年、また3学期を迎えているかを聞いてみたいところです。私からは皆さんに3つの漢字を示しておきます。

まずは、学問、学習の「学」です。進学校の生徒として、「学」という字を目標に頑張ってもらいたいと思います。机上の学習はもちろんのこと、探究学習など、視野を広げた自分自身を深掘りする学びも期待したいところです。また、友達や先輩方の素晴らしいところを学んで自分のものにする 것도大事です。学びは皆さんの人生を決して裏切りません。継続した学びを実行してください。まずは「学」の一字を贈ります。

次に、挑戦の「挑」、挑むという一字です。6年生・35期生の皆さん、いよいよ入試本番、大学入学共通テストが近づいてきました。穎明館生活6年間、様々なことにトライ、チャレンジを続けてきた皆さんの集大成です。これからの入試期間、約2か月は、ある意味、人生を凝縮したように様々な経験をすることでしょう。決して妥協したり、あきらめたりすることなく、挑戦を続けてください。挑戦し続ける35期生を穎明館全体で応援しています。また、下級生の皆さんも35期生、よき先輩を見習って、失敗を恐れずに挑戦する気概を期待しています。今年も穎明館生皆さんにとっては挑戦の年です。挑戦の「挑」、胸に刻んでください。

最後に贈る一字は、穎明館の「穎」です。穎明館の「穎」は、錐、稲の穂先といったとがったものから聡明、賢い、聡いといった意味が含まれていることは、もちろん知っていますよね。創立者堀越克明先生は、祖父修一郎先生の投稿雑誌『穎才新誌』から「穎」の文字をとって学校名にあてました。この「穎」一字への熱い思い、学校創立への高い志を、私たちは受け継いでいかなければならない。世間一般では難しいとされるこの「穎」一字へのこだわりこそ、穎明館生の矜持は保たれるといっても過言ではないでしょう。校歌にある「穎明館こそわが誇り」、そしてモットーの「穎才を研きよき地球人たれ」とともに、穎明館生皆さんの心に常にとどめておいてほしいものです。

今後の指針となる「学」、「挑」、「穎」と3つの漢字を贈りました。皆さんには今、どのような漢字が頭に浮かんでいますか。皆さんそれぞれの今年の目標、3学期の目標をシンプルに漢字一字にしてみるのもいいでしょう。迷ったとき、つまづいたとき、前に進みたいときに、「この漢字一字で強くなれる」というような、自分ならではの漢字を手に入れてみてください。そして今年も、3学期も、穎明館生全員の着実な前進、成長を期待しています。健康に留意し、充実した一日一日を過ごしていきましょう。

以上、令和3年度穎明館中学高等学校第3学期始業式の式辞と致します。